

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和 6 年 6 月 5 日 中津川市歴史文化財愛護団体等連絡会

開会

今日の流れは、歴史文化財愛護団体等連絡会から今までの経過などについて報告をしていただき、各団体の代表者から 2 分以内で話していただきたい。そのあと総括的に市長からお話を伺っていく段取りで進めたい。よろしくお願いいたします。

代表あいさつ

率直な意見交換をさせていただきながら、地域のためにも頑張りたい。

最近、この会を頻繁に開催していただいておりますが、地域で活動している方々が他の地域の方々と交流をする中で、いいところをお互いに共有し合えると思っている。

忌憚のない意見を交えながら、いいところは伸ばしていきたいと思うので、皆さんのご協力をお願いしたい。よろしくお願いします。

市長

4 月から、市民の皆さまとの対話集会をしている。いろいろな団体や地区の皆さま方に集まっただいて、一方的な要望を聞くとか、私が一方的に話すということではなく、対話しながらテーマに沿って進めている。

市内の文化財、史跡の保存ということがテーマなので、中津川市のためにどうしていくのが一番いいのかということを、皆さま方からいろいろご意見をいただきたいと思っている。

大変申し訳ないが、限られた時間の中、本来 1 人一言ずつしゃべっていただくといいが、人数が多いので時間が取れないと思う。代表の方になってしまうかもしれないが、ぜひご意見をいただければと思う。どうぞよろしくお願いします。

<これまでの経緯、報告> (略)

参加者

阿木地区では、現在は用途廃止になっている阿木地域振興センターの 1 階部分を学童が利用しており、2 階部分に郷土資料館がある。阿木区長会が、電気代を面倒見てくださっている。たくさんの方が、管理保存していくのは並大抵のものではない。中津全体での一括保存も視野に入れながら、地域の子どもたちに教えてあげたいと思っている。

参加者

坂下地区では、2012 年にバラバラに活動していた小さな団体をまとめ、20 数人の会員で活動を始め、12～13 年経過している。

苗木遠山史料館で、坂下の文化財を開示する機会があった。2013 年度から 3 年間、がんばるサポート事業で資料館を開設した結果、小学生や大学生の見学があったり、市内の各団体の方々から見学の申し込みがあったりした。私たちは全くの素人ばかりだが、市文化振興課の学芸員を巻き込んで活動を助けていただいたり、調査員や遠山史料館のご指導をいただきながら今に至るまで活動を行っている。地区には大変すばらしい材料があるが、地域の方々と一緒に活動していただける学芸員 5 人くらい専属で必要だと思う。郷土の文化財を日の当たるものにしていくよう、専門知識を持った方を増やしていただけるとありがたい。

参加者

付知文化財保存会の主な活動として、文化財史跡の看板を 14 カ所設置したり、ふるさと巡回ツアーを地域の人を集めて 55 回程度行なった。今、力を入れているのは、中学 1 年生と歩いてめぐる研修会で、地域の文化財、史跡、また歴史などを学んでもらい、郷土愛を持っていただいて、将来少しでも地域に根づいてもらうための活動を行なっている。

課題として、昭和 53 年頃に遺跡を発掘したが、矢じりなどの発掘品は総合事務所の収蔵庫の奥にしまっただけで全然役に立っていない。そういったものを保存できる共通の施設があるといい。また保護、保存の活動が地域ごとになっていて、地域で完結している。今後、市全体で統一性がとれた文化財保存の活動ができるといいと考えている。

参加者

各地区でも文化財保護団体を作るようにという指導もあったので、平成 24 年に川上地区郷土文化財保存会という団体を立ち上げ、地区内の文化財や近隣の旧市町村の文化財などの視察をした。また、旧川上村の行政資料の整備や川上自然休養村センターの中に収蔵してある農機具などの民俗資料の整理を行なった。それらの整理がついてからは目立った活動はあまり行なっていない。旧川上村の資料は、休養村センターの中に 1,648 点、川上小学校の倉庫に 1,713 点収蔵されているが、いずれも倉庫の中にしまった状態で活用されていない。

会議で民俗資料を集めた資料館を作ってほしいと発言したが、新しく建物を作るのは難しく、小中学校の旧校舎の活用を図っていききたいということだった。10 年ほどはあまり動きがなかったが、ここ数年、そういった動きが進んできて大変期待していたが、今年の会議で、市の方から、高山小学校、下野小学校の民間活用の動きが進んでからになるという後退した説明がありがっかりした。旧市の施設の民間活用と文化財は全く次元の違う話なので、そういうことのないように文化行政を進めていただきたい。

参加者

蛭川の郷土文化保存会は 3 人で活動している。昭和 40 年代に村史を作ったとき、明治 21 年に役場が焼けてしまって資料が全くなかったので、いろいろと資料を集めるのが大変だった。そのため、大事な資料を取っておこうということで、昭和 58 年にほぼ私財を投じて郷土資料館が作られた。

ずっと 1 人で担当していたが、行政資料を整理しようというあたりから人数が増え、現在 3 人で月 2 回、第 2 月曜日と第 4 月曜日に作業を進めている。そうしないと市のマスタープランで、いずれ郷土資料館が廃止になってしまう。

郷土資料館にある資料はほぼ行政資料で、中には大事な資料もあり、時々行政からの問い合わせに対応したりすることもある。とりあえず今のところ電気も水道も使えるが、いずれ統廃合される。とにかく郷土資料館を何とか続けていきたいと思ってやっている。

参加者

福岡では、市史編さんセンターの資料整備の手伝いを 7 人で行なっている。郷土資料館が小学校の統廃合で取り壊され、現在、田瀬小学校の校舎へ持ち込んで活動を行っているが、雨漏りもあり、できれば早く落ち着いた場所に収蔵できればと願っている。

参加者

加子母では、先生方 2 人のもと、4 人でデータ取りや確認等の手伝いをしている。最近若い人が 2 人入っていただきうれしく思っている。郷土館の使用も最小限で、1 階と 2 階の同

時使用はしていない。水道が止めてあり、トイレがあっても使えない。掃除は裏の農業用水からバケツに水を汲んでやっている。空き家になっているので、小動物に住みつかれ、手当はしていただいたが、まだ完璧でない。館内を開けて作業していたとき、見学をさせて欲しいという方があり、建物に懐かしさを感じて行かれたようだ。現在も資料の整理に追われている状態。

参加者

苗木城ガイドの会の登録人数は 26 人。年齢的には 70 代以降ばかりで、80 代までいて、実質的には 15～16 人が動けるような感じ。昨年度は大体 250 回ぐらいガイドをした。延べ人数は 2,000 人以上になると思う。

苗木城へ訪れていただいた人数は最高 15 万人。最近はコロナ禍で減って、大体 9 万人前後が来ている。

お客様から言われることの 1 つとしては、まだ知名度が足りないということ。最近はテレビや雑誌などいろいろな形で紹介していただいているし、ユーチューブでの紹介もされており、結構知名度はあるが、まだまだ苗木城ってどうやって行くのかと聞かれる。PR が足りないという気はしているし、駅からも距離があり、お昼を食べるところがないと言われる。インフラなども含めて改善していく要素が多くある。友の会も含めた環境整備で、木や竹の伐採をして景色が見えるようにしたが、未整備の石垣まで見えるようになってしまった。まだまだやることがいっぱいあって、これからも行政と協力し合ってやっていければいいかなと思っている。

参加者

福岡文化財保存会は現在 7 人で活動しており、春と秋、それから文化財防火デーに合わせて建物内などを見回る活動や保存と整備、周辺の草刈をやっている。

また子ども会に合わせて、4 地区で隔年に史跡めぐりをやっており、子どもや親御さんも含めて歩いて地区の史跡を回り、皆に覚えてもらうというような活動をやっている。

古文書類は整理し、民俗資料を田瀬小学校に持ち込んだが、持ち込んだだけで展示をして見てもらう状況ではない。見てもらう案内も出せずにいる。早くきちんとした格好で展示し、子どもたちにも見てもらえることを望んでいる。

地域ごとで、大事な文化財を後世に残そうという活動をしておられるが、全体的な動きができていない。文化財保護員がいるが、集まりもなく、それぞれの思いでやっている状態が続いている。それを何とか 1 つにまとめ、文化財を残していくために、市の指示があるとやりやすいと思っている。

参加者

地道に郷土資料や文化財の保護活動をされている皆さんのお話を聞いて、改めて感動している。

中津川宿でガイドをしている。ガイドの実績は、年 12 件で案内したお客さんは 89 人。中津川市のメインストリートである中山道にはいろいろな方が来ているが、ガイドの知名度はまだまだない。ガイドを利用する方は少ないと思っている。私がガイドを始めたきっかけは、名古屋からこちらに住み始めて、遠山史料館に行って歴史の面白さを教わったことが影響している。もっといろいろな人に歴史や街道の文化などを広げていく必要があると感じている。

そういうことを踏まえて、次の課題として、人材の掘り起こしと事業継承する活動団体を作っていくのが大事ではないかと思っている。

そして、観光ガイドがそれを利用して、全国から来るお客様に説明できるようになるという。

参加者

加子母の活動として特に目立ったことはやっていない。個人では、山守の歴史を子どもや大人に案内することをやられている。それぞれの地区では、区や班ごとで有形・無形の祭りや古い建物を自分たちで守っているような状況になっている。

郷土館で市史の編さんなどをやっているということだが、いつ倒れてもおかしくないような建物なので、順次考えていただかないといけない。

参加者

坂本では、文化遺産保存会が中心になって、坂本の歴史について写真集を刊行するなどの活動をしている。

リニアで大きく変わっていくので、今ある姿を残すことが非常に重要な作業となっている。中山道の街道筋の歴史は残っており、違った観点から史跡を残すということが必要になってくる。それから、それが起きるがために変わる、よくなる部分も必ずあるので、そこにも着目して、活気あるまちをもう一度振り返るということが非常に重要だと思っている。

坂本文化遺産保存会から何度か写真集を出しているが、現在3冊目の資料を集めており、小学校5年生を中心にまちを歩いてもらっている。自分たちのまちとして、子どもたちや住んでいる方々の胸に刻んでもらうことが必要だと考えて活動している。リニアで大きく変わろうとしており、それを否定することはできないが、自分たちの生活を阻害されることなく生活を豊かにするための努力をしていきたい。

参加者

落合の文化財がどれぐらいあり、どこにどんなものがあるのかほとんど知らない。

文化財保護委員が旧恵北だけしか配置されていないので、旧市内にも配置して欲しいという請願を市議会に出して採択されている。文化財を地域で守り、維持していくという意味でも、早急に全市への配置をお願いしたい。そういう人たちを中心に、中津川市の文化財のあるべき姿を研究していきたいと思っている。

それから落合には本陣があるが、4月にシロアリが発生したので公開中止となっており、いつ公開できるかわからない。市の方で対応していただき、再建に向けての委員会がつくられ検討されているが、1日も早い再興ができるといいと思う。

落合小学校の空き教室を利用して、有志5人くらいのメンバーで、子どもたちと「孜及舎(しきゅうしゃ)」という会を設けて、毎月1回子供たちと落合の歴史について勉強会をやっている。去年は、夏休みにひと・まちテラスで子どもたちがパワーポイントで発表した。今年も8月18日にひと・まちテラスで行いたいと思っている。子どもたちも一緒になって落合の地域、まちを知る、歴史を知る、自分たちのまちがいかにすばらしいかということを感じてもらえるような会を多く持っていきたい。孜及舎(しきゅうしゃ)というのは、落合の昔の寺子屋の名前を継承している。

参加者

文化財保護基本構想で文化財保護法が改正され、文化財保存活用地域計画を立てることになっているはず。素晴らしい計画を立てている市町村が多くある。地域に合った計画を立て、それを文化庁に出せば認定されて補助金が出ると思う。

優先順位として、苗木城 500 年も近づいているので、優先順位としてまずそれをやりたいと思っている。岡崎市は「どうする家康」があったときに、観光課の中に「どうする家康を活用する課」を 1 年間限定で作った。それぐらいのことを考えていただけたらいいと思う。

市長

市内各地域で、それぞれの文化財や史跡などをしっかりと守る活動をしていただいております。御礼を申し上げます。それぞれの地域だけではなく、こういう横の繋がりがある会を作っていただいたことも重ねて御礼を申し上げます。

文化財や遺跡の保存や保護をどうしていくか、どう活用していくかということが大事であると思っている。

文化財の活用については、小学校の子どもたちなど、次世代に継承していくことがとても重要だと思っている。そのために、今各地にある文化財をどうやって保護、保存していくのかを市としてもしっかりと考えていかなければいけない。

どういう形にできるかは、しっかりと話をしながら進めていきたいが、保存方法も含め、市全体で取り組んでいくことがとても大事だと思っているし、できれば 1 ヶ所に集めて、市内の子どもたち、市外から来る子どもたち、大人の皆さんに、この中津川市の文化財を見ていただく場所ができるといいと思っている。学校の活用を含めて、どういう形がいいかということ、またこれから考えていきたい。

学芸員の現状は、文化振興課に学芸員が 6 人、鉱物博物館の自然科学に関わる学芸員が 1 人いる。学芸員は、考古学、歴史、美術、文学などの分野があり、自分の分野のことはわかるが別の分野はわからない。学芸員を増やすことも大変重要だと思っているが、文化財に関わる学芸員をどうやって増やしていくのか、古文書や文学といった分野だけかなども含めて考えていきたい。

文化財保護員の現状については、旧中津川市にはいないので、今年度中に新しく選任するように取り組みをしたいと思っている。市全体で、文化財保護員の方に各地域の活動をしていただきたいと思っている。

今ここで結論は言えないが、それぞれ点々としているのではなく、集めるのがいいと思っている。まず場所はどこがいいか、どうやって集めるか、いろいろ考えていく必要がある。各地区で収蔵しているものを集めた場合、5 万 3 千点、細かなものを入れると 8 万点ぐらいになる。それを集めたときに、同じようなものがたくさんあって、例えば、各地にある昔の農機具なども全部そこに飾ることはできないのではないかな。ある程度選定をした上での展示が必要になってくる。方法もこれから考えていく必要がある。

いただいたご意見を大切に、市として郷土の歴史をどうやって残していくのが一番いいのか、これからの子供たちにそれをつなげていくためにどうするのがいいのかを考えて、方向性を見定めて取り組んでいきたいと思っている。

中津川の歴史、文化を知っていただくことで自分たちのまち、育った場所を改めて知ってもらい郷土愛を育むような、そういった文化財、史跡の保護や活用をしていきたい。皆様方には引き続き地域での活動もしていただきたいし、いただいたご意見がいい形になるように進めてまいりたい。

進捗も含めて情報も共有できればと思っているので、引き続きよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。